

員をじっと見て意識している様子があり、触れられるのを期待して待っているように感じました。最後の「じゃんけん ポン」のフレーズで、あわせるように肩を出し、触れられると目をあわせてにこやかな表情になりました。

A6のBさんは普段、職員が話しかけると楽しそうに笑い、時には自分でも声を出します。言葉の理解はありませんが職員が他の利用者と話していると傍に寄ってきたり、落語のCDが流れると、CDデッキの前に行き、座って聞いていたりします。落語の流れるような話しかたや、流れてくることばのテンポやリズムを感じているようで、時々楽しそうに笑っていました。日常生活では、リズムのある語りかけをしています。絵本『じゅげむ』の語りかけでは、はじめの頃はこちらが語りかけると一緒になって声を出すこともありましたが、聞いていないこともありましたが。続けるうちに、はじめの前に声を出していても「はじめますよ」と声をかけると静かになり、語りかけを聞こうとしているのが感じられました。「じゅげむじゅげむごうのすりきれ」とリズム良く語りかけると顔を上げたり職員

の方を向いたりして、集中して聞いている様子があります。語りかけが終わったのを感じると再び声を出しはじめます。語りかけに集中してよく聞いている様子から、もっと聞きたい、最後まで聞いていたいという気持ちが感じられました。



**あさひの
日常生活紹介**
町 英津子

あさひは、18歳以上の成人を対象とした通所部門です。現在、37名が利用し、日常生活上の介護や医療的ケアなどが常に必要な人が多く通所されています。

横地分類ではA1が19名、A2が3名、A3が2名、A

3-Bが1名、A4が1名、B1が5名、B3が1名、B4が1名、D1が2名、D2が1名、D3-Bが1名となります。5〜8人ほどの人数で1グループを構成し、5グループに分かれています。一人ひとりの利用者がどんなことに興味があり、どんな楽しみを持っているのか、その楽しみを上げていくためにはどうしたらいいのだろうかと考えながら日常生活を提供しています。

A1のAさんは、自分に向けられる声かけだけではなく、他の利用者が活動している声や音にも耳を傾けて、腕に力を入れ動かす様子が見られます。

新聞紙や障子紙などを握り、引っ張り合い、紙がビリビリと破れていく音を聞いたリ、引っ張られる感触の活動を提供しています。

他の利用者が活動をしている音や声が聞こえ始めると、Aさんも紙を握っていないのに腕を動かす始まります。「Aさん、活動しようね」の声に、顔や目を向けて聞いている様子が見られます。活動を提供し始めた頃は、こちらが引っ張る感触で握り返していたように思えました。しかし、活動を繰り返していくと、新聞

紙を握るとすぐに腕を動かすことが多く見られるようになりました。その動きは強く、引っ張ることを意識した腕の動きだと感じました。また、ビリッという音を聞き、紙を握っていた腕に抵抗感がなくなると、腕の力が抜けて終わりを感じている様子がわかりました。



B4のBさんは、「きんぎょが にげた」という絵本を見ながら、絵の中のきんぎょを探して指を指し、楽しむ様子が見られます。同じように、何かを見つけて楽しむことができる活動はないかと考え提供しています。

Bさんの前で、たらいの中にたくさんのカラールボールを用意し、ゴロゴロとボールを

かき混ぜます。腹臥位でリラックスしながら過ごしていたBさんはゆっくり顔を持ち上げ、たらいの中のボールを見ようと腹這いでたらいに近づいてきます。ゴロゴロゴロと動くボールをたらいの縁にあごを乗せて見つめています。他のボールと違う、区別できるボールを1つBさんに見せて、「入れるね」とたらいに入れて、ゴロゴロとかき混ぜると違うボールが、他のボールに隠れて見えなくなります。職員が「どこ行ったかなあ？」とたらいを覗き込むと、Bさんも同じように覗き込み、1つずつボールをかき出しながらそのボールを探し始めました。こちらには視線を向けず、真剣な表情でたらいの中を見つめ続けています。そして、動かしている手元にチラッとボールを見つけた瞬間、それまでの緊張していた表情とは違う表情が見られました。あーと声を出しながら満足そうに笑い、ボールを掴んでいました。

利用者一人ひとり、興味や関心は違います。楽しいと感じられることも違います。利用者としてゆっくりと、そしてまっすぐ向き合いながら、楽しみにつながる活動をこれからも提供していきたいと思えます。